

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	福 井 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大野市開成中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	5	2	15	29
生徒数	126	123	161	5	415	

研究の概要

1. 研究主題

指導と評価の一体化を図るなかで、確かな学力を培う授業づくり

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全教科・全学年において、基礎基本の定着を土台に確かな学力〔=学ぼうとする力(意欲)・学ぶ力(学習の方法)・学んだ力(理解度・到達度)のバランス〕を培う方策を研究する。
 学習における問題解決の道筋を「見通し」と、また問題解決後の自己の変容や能力の高まりへの自己認知を「振り返り」と捉え、この二つの過程を意識した授業づくりを2年間に渡って試みている。
 本年は、とくに「振り返り」の実践に力を入れるなかで、いかに生徒個人に達成感や満足感を味わわせ、自信をつけさせてやれるかに取り組んだ。
 また、指導の形態として、TT指導(全学年数学)(3年国語)(2年生英語)、少人数指導(3年生英語)を行っている。いずれも、生徒の理解の状況に差が出る教科、学年であるとの理由による。

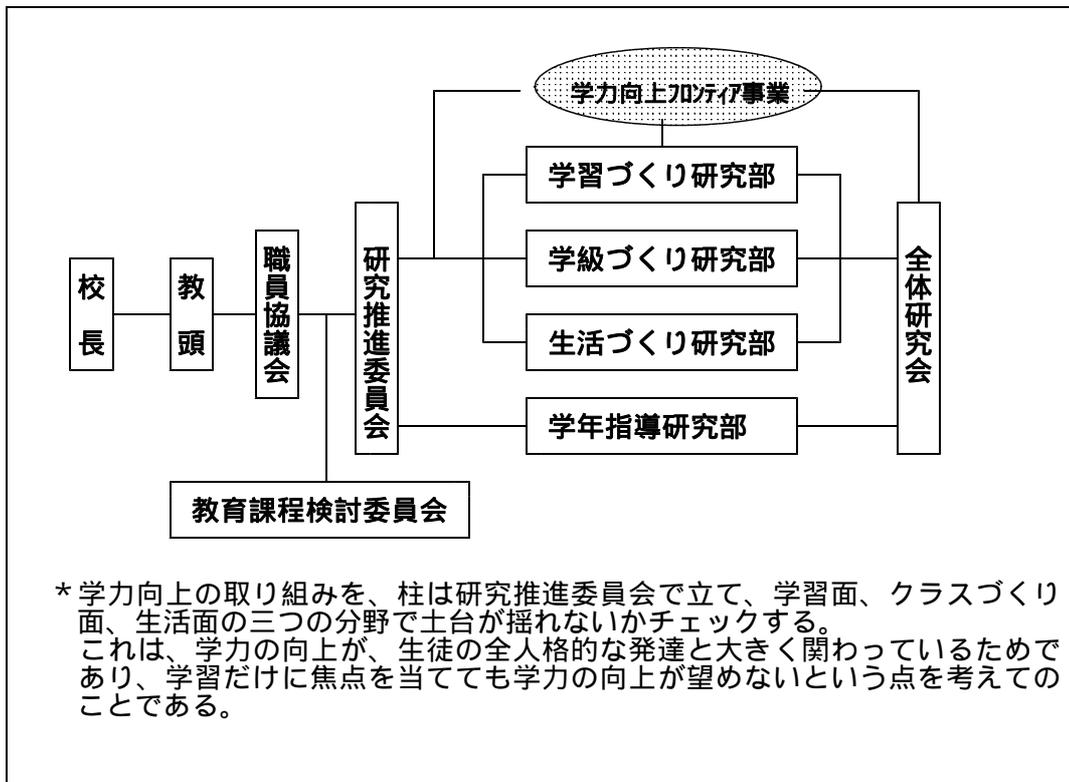
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「生徒自らが課題をつかみ、追究し解決する中で、確かな学力を培う授業づくり」</p> <p>研究の見通し(仮説) ・H14年度 一般的に「勉強が分からない」という生徒は、課題解決の道筋がわからない、課題解決の見通しが立たないのではないかと。したがって、学びの方法を身につけさせれば、学力は身につくのではないかと。 ・H15年度 「できた」「分かった」という感情を持たせることが、生徒の学習意欲や学力の伸長に関わるのではないかと。ただし、教師側がどんな力をつけたいかが明確でなくてはならない。 ・H16年度 学習における「見通し立て」と「振り返り」の過程を踏まえた上で、生徒の達成感や達成感を大切にする学習サイクルの確立を目指す。また「学ぶ力」・「学ぼうとする力」・「学んだ力」の具現化に努める。</p> <p>研究の内容・方法 全教科において、問題解決の場面が生じたときに、いかにすれば問題解決が行われるかを考えさせる過程を授業時間の中に組み込み、その方法について教師がチェックを行い、見通しが立たない生徒には、教える。</p>
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 「指導と評価の一体化を図るなかで、確かな学力を培う授業づくり」</p> <p>研究の見通し 学習意欲、学力の伸長には「達成感」・「成就感」が大きく関わってきていることを確認した(生徒のアンケートより)上で、学習過程において生徒の「達成感」や「成就感」を味わわせる工夫を試みる。それは、生徒自身が自分自身の活動を振り返る過程にあり、また、それをどのように生徒に返していくかを研究する。</p> <p>研究の内容・方法 ・全教科において「振り返り」の方法を追究する。 ・振り返りシートの作成 ・教師側の指導内容の明確化</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 「指導と評価の一体化を図るなかで、確かな学力を培う授業づくり」</p> <p>研究の見通し 平成15年度を継続。</p> <p>研究の内容・方法 ・指導と評価の一体化……「振り返り」の更なる発展 「振り返り」の中に「学ぶ力」「学ぼうとする力」「学んだ力」を、どのように具現化していけばいいか。</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果および今後の課題

1. 研究成果

各教科における振り返りの実践

国語…教師の指導内容に基づいた「やる気を育てる振り返り」シートの工夫

社会…単元、調査活動、定期テスト後の振り返りシートの作成

数学…フリカエル表、小テスト、定期テスト後の振り返りの実践

理科…定期テストの振り返り、理科ノートの振り返り、到達度テストの重視

英語…各ユニットにおける重点評価項目の振り返り、定期テストの振り返り

音楽…毎授業後に振り返りをさせ、自己評価を行わせ、教師のコメントを加える。

美術…具体的な目標設定と振り返り（シートの作成）

保健体育…個人の目標設定に応じた振り返りカードの作成

技術家庭…簡便化されたチェックシートの作成

〔生徒の反応〕

- ・先生方からのアドバイスによって、どういふところをどうすればよいかが増えず分かってくるようになった
- ・自分の分かるところや分からないところがはっきりして、自信がつく
- ・分からないところが分かる
- ・テスト前に、苦手分野をすぐに見つけて重点的に学習できる
- ・忘れていたことを思い出せる
- ・成長した自分を実感できる

「振り返り」の実践の目的は、生徒の自己認知にある。もちろん、自己評価能力に差があることは事実であるが、自分の学力を自分なりに分析できる機会であることは間違いない。もちろん、教師からのアドバイスやコメントがここで大きな役割を担っているわけである。「振り返り」の実践が、「学んだ力」、「学ぼうとする力」、「学ぶ力」の育成に関与していると思う。

学習に関する意識調査の実施（本校作成のもの）

生徒の学習面に関して実態把握をするために、意識調査を行っている。

授業全般に関して、生徒が授業をわかりやすく感じているかという点で、おおむね良好であると思われる。どの教科においても授業がわかりやすいという意識（80%以上）が高く、昨年度と比較した場合、現在の2年生、3年生はそれぞれ1年生、2年生であった時よりもよりわかりやすいと感じている生徒が増加傾向にある。

興味深く思っているのは、生徒のやる気（意欲）に関する質問項目である。生徒はどのいうときに一番やる気を出すのであろうか、ということ聞いたわけであるが、項目の中から反応の多いものを取り出してみると、「自分がわかった、できた実感できたとき」、「学習内容に興味があるとき」の項目が圧倒的に多く、以下「テストの点数がよかったとき」、「何をすればよいかかわかるとき」、「体験・作業・実験などをするとき」となっている。やはり、やる気の源は個人の達成感や成就感、満足感が大きく、いかにその学習内容に興味を持つかにかかっているかということが再認識された。そして、このことに加えて、解決の道筋の把握、到達度、学習に体験を伴う要素が含まれるかどうか関わってくる。しかしながら、この結果は今わたしたちが考えている確かな学力の育成への大きな指針を示していることは確かであろうと思われる。

また、学習における約束事に関して、項目によって、今よりもその意識を高めなくてはならないものもあるが、おおむね意識化が図られているという結果が出た。

更に、生徒の日常生活面において、あいさつ、時間のけじめ、読書タイム、マイスクールライフ（連絡帳兼日記）のやりとり、食事、睡眠などについて現状を把握してみた。確かな学力の土台として、生徒一人ひとりの生活面が充実していることを大切にしている。全般的に見るとこれもおおむね満足できる結果を示しており、生徒の学習への取り組みの落ち着きを示していると思われる。ただ、マイスクールライフに対する反応が低いのであるが、この原因は項目の問いかけが「毎日行っている人」と限定したこと、また質問の内容を高い次元でやりとりしていると受け取られてしまったためと思われる。実際に、その項目を「たまに忘れることもあるが、先生とやりとりしている」とすれば、おそらく95%程度の反応が得られたはずである。また今年度からスタートした読書タイムであるが、これも学年が進むにつれて、読書の時間を楽しみに思う意識が高くなっており、内面の成長が感じられる結果を示した。食事面は、3食とられているかいくらか心配をしていたのであるが、多くの生徒がとっていることに胸をなで下ろす結果

となった。睡眠時間がやや少ないのが気にかかるが、今後もう少しその中身を詳しくみていく必要があると思われる。

(詳細別紙または本校HP)

2. 今後の課題

- ・指導と評価の一体化・・・「振り返り」の更なる発展
「振り返り」の中に「学ぶ力」「学ぼうとする力」「学んだ力」をどのように具現化していくかを研究する。

学力把握のための学校としての取組

- ・学習に関する意識調査(11月実施)
内容；授業内容の理解に関する項目(9教科+選択+総合学習)
学習意欲、学習の約束、家庭学習、定期テストにおける取り組み具合、
学習意欲を感じる要因、日常生活全般に関する調査
- ・定期テスト後の評価規準に基づいた分析

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年8月12日(火)学力向上に向けた取り組みの発表
- ・平成15年11月19日(水)に授業公開
- ・平成16年1月 本校ホームページの立ち上げ
- ・平成16年1月27日(火)県外校学校訪問において取り組みの説明
- ・平成16年2月 坂井・奥越地区における研究紀要の作成

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	